

# 協力隊通信

2021  
Vol.6 12月

**冬**になり、爬虫類・両生類は冬眠し、季節外れではありますが、今年最後に、ヤマカガシの紹介をさせていただきますと思います。

**ヤマカガシ**(写真1)は、村内では普通に見かけますが、奈良県のレッドリストでは希少種に指定されています。主に、カエルやオタマジャクシ、魚などを食べています。上北山村の個体からは、ナガレヒキガエルとタゴガエルが確認されました。地域による色彩変異が大きく、赤、黄、黒色の模様が入った派手な個体が多い地域もあります。関西では写真のような模様の少ないオリーブグリーンの地味な個体が多いようです。毒蛇であることはご存知の方も多いと思いますが、マムシと違い毒牙は奥歯にあるため、よほど深く長く噛まれなければ、すぐさま命に関わるようなことはありません。また、比較のおとなしいので必要以上に怖がって、危険だからと殺したりしないようお願いいたします。私自身、何回か噛

まれていますが、体調に異変はありませんでした。それでも、実際に死亡例があり、毒自体はマムシより強いので、むやみに捕まえたりしないようお願いいたします。



写真1. ヤマカガシ・幼体(右)と成体(左).  
幼体の時は、赤や黄色が入る個体が多いようです。

また、あまり知られていないと思いますが、歯以外にも、首(人間でいう「うなじ」の部分)に頸腺(けいせん)という器官があ

り、毒の入った袋が並んでいます(写真2)。これには、開口部がなく、鳥などにつつかれて破れた時に毒液が噴射されるようになっていきます。よって、噴射された頸腺毒が目に入ると危険ですので、首の部分は強く押さえないように注意してください。ちなみに、この毒は、餌のヒキガエル由来で、卵黄を通して親から子へ引き継がれることも分かっ



頸腺. この個体はかなりよく発達しています。

写真2. ヤマカガシの頭部(右)および頸腺(左).  
赤矢印の部分に毒の入った袋が並んでいます。

ています。村にはナガレヒキガエルがたくさんいますので、ヤマカガシも頸腺毒をたくさん持っているかもしれません。

シマヘビに関しては、次号紹介させていただきます。ここからは林道のゴミのお話をいたします。

村内の林道を生き物を探しながら歩いてみると、ゴミがとても多いことに気が付きます。そして、自然の風景の中にプラスチックやビニール、金属といった人工物が落ちてみると、とてもよく目立ち、汚く感じられます(写真3)。そこで、寒くなり、生き物も少なくなつたため良い機会だと思い、ネイチャーゲームを試しながらゴミを拾う



写真3. 林道のゴミ。

ことにしました。

国道309号線に入つてすぐのところから、水太和佐又線の方面に歩きながら、3kmほどの区間を往復し、4日間で集まったゴミは6袋にもなりまして(写真4)。タイヤなどの大型ゴミは回収できていないので、ほとんどが、缶、ビン、ペットボトル、ビニール袋、コンビニ弁当の容器です。自然の中で採る食事は気持ちがよく、おいしく感じられると思います。ただ、そのあと、自然に感謝し、全て持ち帰った方がさらに気分がいいと思うのですが。



写真4. 林道水太和佐又線で回収したゴミ。4日間で6袋にもなりました。

今回、ゴミを回収したのは、よく行っている水太和佐又線ですが、村内には、ここより多くのゴミが捨てられている場所がいくつもあります。村の美観を損ねるゴミは、観光等で訪れた方々に悪い印象を与えかねないので、少しでも減らせればと思っています。

今は季節的に厳しいため、生き物たちが活動する時期になったら、それらを探して林道を歩きながらゴミを拾うイベントをおこないたいと考えています。その際には、ぜひ、一人でも多くの方に参加ご協力していただければ嬉しく思います。

最後に。上北山村に来て早いもので一年が経とうとしています。個人的には楽しく充実した毎日でしたが、反面、「協力隊」として何か役に立っているのかと自問することも多い一年でした。まだまだ試行錯誤ではありますが、何か残せるように頑張つて参りますので、来年もよろしくお願いいたします。



ありがとうございました!

野菜をいただくなど、うさぎ共々、一年間みなさまには大変お世話になり、ありがとうございました。みなさま、よいお年をお迎えください。